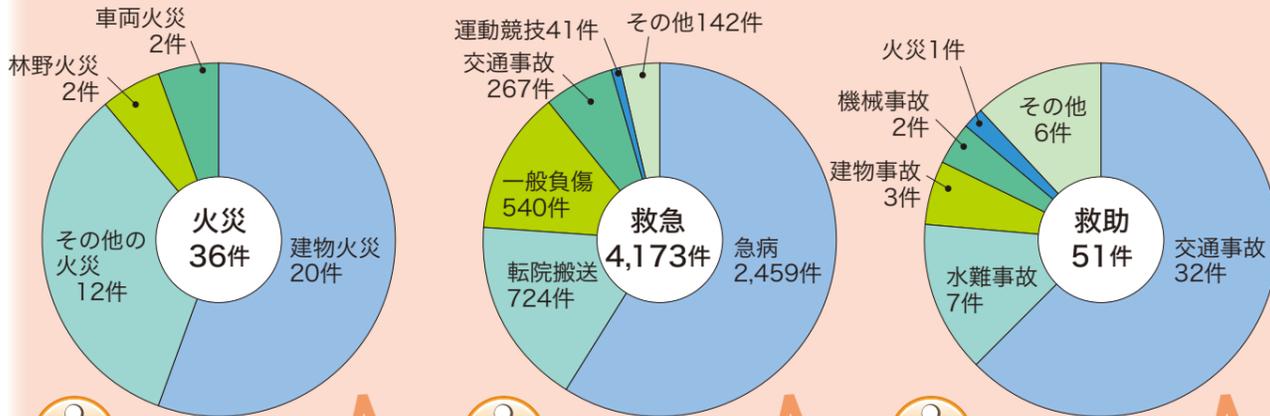




本市の平成27年火災・救急・救助統計



火災件数は、昭和56年の川内地区消防組合(現消防局の前身)発足以来、最少の36件となりました。これまでの最多件数は平成8年の114件で、この年と比較すると、約1/3に減少しました。

救急件数は、過去最多の件数となりました。なかでも急病人の搬送件数が増加しましたが、急を要しない軽症者の要請も少なくありません。助かる命を救うため、救急車の適正な利用を心掛けてください。

救助件数は、昨年より13件少ない51件でした。交通事故による要請が最も多くなっています。また、水難事故は7件で、昨年より1件増えました。

火災を防ぐために

出火原因の第1位は、10年連続で「たき火・火入れ」(10件)です。枯草の焼却中、目を離れた間に燃え広がり、火災にいたるケースがほとんどです。



枯草を焼却するとき

- 必ず消防署に届け出る。
- 消火器や水バケツを準備する。
- 風の強い日や空気が乾燥している日は焼却しない。
- 焼却時は必ず複数人で行い、その場を離れない。



高齢者の重症化を防ぐために

高齢者は、身の異変に気付きながらも病院を受診せず、重症化してから救急要請されるケースが多く見られます。手遅れになる前に、早めの受診を心掛けましょう。



消防ミニ図鑑 No.38 「消火器」

初期消火器具として広く普及している「消火器」について紹介します。「消火器」は、使用される薬剤に違いはありますが、使い方はどれも同じ。3つの動作で簡単に使用でき、火災発生時の初期段階で効果を発揮します。一般的には、天井に燃え広がる前までであれば、消火器での消火が可能です。一般家庭には設置義務はありませんが、もしもの場合に備えて、一家に1台は消火器を設置しましょう。また、古い消火器の破裂事故が全国で発生しています。家庭の消火器に変形や腐食が見られたら処分し、新しい消火器に取り替えましょう。処分方法などについては、消防用設備業者または最寄りの消防署に問い合わせください。

消火器の使い方



【編集】= 薩摩川内市消防局予防課 / <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

地震への備えできていますか？

たくさんの尊い命を一瞬にして奪った「東日本大震災」から5年。もし、あのような大惨事があなたの身を襲ったら・・・震災の記憶を風化させることなく、地震に対する備えを万全にしましょう！



地震に対する日ごろの備え

1 家族会議や避難訓練

地震や津波が発生したときの避難場所や、家族との連絡方法など、家庭内で話し合っておきましょう。各地域で行われる防災訓練にも家族で参加し、模擬体験を通して問題点などを話し合い、万が一の災害発生に備えましょう。



2 地域の避難場所を確認

地域ごとに決められている避難場所を、各世帯に配布されている「防災マップ」で確認しておきましょう。「防災マップ」は市ホームページ上にも掲載しています。



アドレス: <http://www.city.satsumasendai.kagoshima.jp/bousai/top.htm>

3 避難に備え、非常持出品を準備

避難時にすぐ持ち出せるように、非常持出品をリュックサックなどにまとめておきましょう。年齢や性別によって必要なものも異なります。何が必要かを家族で話し合い、確認した上で準備しましょう。



避難の三原則

- その1 「想定にとらわれるな」
相手は自然。災害時は想定外の事態が起こり得る。
- その2 「最善を尽くせ」
自然災害の中では、いかなる状況下においても、そのときでできることに全力を注ぐ。
- その3 「率先避難者たれ」
いざというときは率先して避難する。その姿を見て他の人も避難し、多くの命を救うことにつながる。

家族の安否を確認する方法があります！

音声を残す 災害用伝言ダイヤル「171」

- 伝言は10件まで保存できます。
- 保存期間は録音から48時間です。

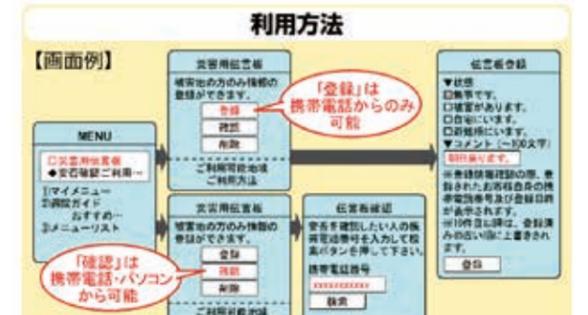


●被災地の方
自宅の電話番号、または、連絡を取りたい被災地の方の電話番号

*登録できる番号は、被災地域の固定電話・ISDN・ひかり電話です。携帯電話は災害用伝言板を利用してください。

文字を残す 災害用伝言板

- 非常時に、携帯電話各社のトップページから利用できます。



*スマートフォンは、アプリも用意されています。